

# 沖縄在勤の思い出

橋間 元徳

社団法人 日本海洋開発建設協会常勤顧問  
(元開発建設部長)



「部長、お昼は一緒に食べませんか」

私が沖縄に赴任して初めての昼休みだったと思うが、秘書の山城久美子さんから声をかけられた。何人かの方も御一緒されて、局内食堂の「芭蕉」で楽しい昼食会になった。「芭蕉」はゆじどうふ「ソーキそば」などの沖縄料理も食べられる。また局内の多くの人が利用しているので、普段個室にいる私にとってはいろいろな人会える場でもあった。しかし、彼女達と話をしながら食べる昼食はまた格別である。

その後も山城さんは私を誘ってくれたし、私も彼女達を誘って何度も昼食会を楽しんだ。そしてそれを機に私はいろんな方をも誘って楽しい昼食会をした。

沖縄では楽しい思い出がたくさんあるが、彼女達をはじめいろんな方と過ごした昼食会ほど、ゆつたりとして楽しかったものはない。

「こんにちは開発建設部長室です」私が出張先などから電話をかけると、秘書の伊是名真紀さんの明るい声が聞こえてくる。実に気持ちの良い応対してくれるが、ともかくこの電話の第一声「こんにちは」という言葉の響きが実に良い。

在勤中多くの方が私を尋ねてきてくれたが、秘書のこの第一声を聞き



彼女に会いたく  
て来たという  
人が何人  
かいた。お  
かげで私  
のこともま  
でほめて  
くださった  
方がいる。

「こんにちは」という電話の応対には、沖縄では良く出会う。但し、必ず女性の場合だ。電話のこの第一声に多くの男性が感激しているのではない。「もしもし」です」と言われるよりはるかに気分が良い。この電話の応対が全国に広まらないかと実は期待しているのだ。

今でも私は沖縄に電話をかけてこの「こんにちは」を聞くと、それだけでかけて良かったと思う。

「恩納松下にちの碑の立ちしめ恋しぬぶまでいんちやねさみ」群星荘の佐久本珍恵さんにいただいた恩納酒造の「ナヒ」という泡盛の箱で初めてこの歌を知った。有名な女流歌人恩納ナヒの首である。「恩納松の下に禁止の札が立つた。恋までも禁止できないでしょう」という意味だ。何とおおらかで小気味のよい歌だ。

私は、沖縄に来て初めて「琉歌」といつ定型詩があることを知った。

今から四百年も前に何人かの女流歌人がすばらしい歌をたくさん残している。また、沖縄でメロディーをつけて良く歌われている「二見情話」「ていんさくめ花」など多くの歌がその歌詞をよく読んでみると琉歌なのだ。そして、今も綿々と受け継がれて作られている。沖縄の人からいただく年賀状や挨拶状に、今でも琉歌を書いて下さる方がいる。

普天間飛行場を見下ろす嘉数高台には平和を祈る多くの琉歌が刻まれている。これは戦後つくられたのであるが、心を打つ歌ばかりだ。

沖縄の魅力は単にサンゴの海がすばらしいというだけでなく、なく、このような伝統文化に支えられているからこそ奥が深く、また光り輝いているのだと思う。

